

兵庫県	既に性のみだれの限界点に達しており、色々な琢磨から少し減ってきたのではないですか。
兵庫県	わかりません
兵庫県	不景気
兵庫県	性の開放状態の今、今後妊娠中絶は増加すると思う。
兵庫県	性に対する知識不足がまだまだあるようです
兵庫県	ピルの為か
鳥取県	ご考案の如く、Pill、なかんずく緊急避妊Pill がかなり普及しているように思われます。
島根県	但し先生もご指摘のようにごくわずかな減少にとまっていると思われます。当院げの受診実教にもムラがあり、はっきりとした数はつかみきれないのですが。(親に内密で手術をしてくれる、費用が安い等の口コミで左右されるようです)
岡山県	婦人科医による性教育とピルの使用がある程度普及したためではと思う
岡山県	主として、経済的観点からか避妊への関心がたかまってきている。
岡山県	16~18才でご家族の用意で出産される例は多くなったと思います。当院に来院される方の中では妊娠の実数は増加していますが、分娩になる割合は増加していると思います。高校生が妊娠しても、学校が「退学」ではなし、「妊娠中の学校生活の注意」を聴きに來てくれます。
広島県	避妊の知識をえる機会が増えているのでは。
広島県	20歳未満で出産を希望する人がやや増加したように思う。理由はよくわかりません。
広島県	ピルの服用が多くなった
広島県	1) (中絶しないで) 出生率が増加した 2) 避妊実行率が高くなったこと 3) 避妊法選択がピルがかつてより多くなったこと 4) 緊急避妊
徳島県	少子化、初交年齢の高齢化
香川県	当院は公立病院でもあるし、2日入院の形態をとっていますから、総数が少ない為、はっきりと増えたとか減ったとかはいえないが、減少しているようにも思える。
香川県	ほんとに若干ですが減っているようです。低容量Pillは、「純粹に避妊のために」は少ないままですが、月経痛の緩和をかねてが増加しています。(たまにニキビの改善をかねて) また、10代の避妊は明らかに増加していますが、分娩を希望する人が増え、中絶が減った感もあります。
香川県	実数は確かに減少しているが理由までわかりません。避妊を確実にしている者は聞く限りあまり多くないようですが・・・
高知県	緊急避妊問い合わせが多くなり実際に中絶を回避できている。
福岡県	ピルの使用者が増加した。
福岡県	広報、啓蒙活動。ピルの服用数の増加

長崎県	20才未満の分娩希望が増加した。
熊本県	避妊指導及び緊急避妊の普及が考えられる。
熊本県	当院の周辺では若年者の人口そのもの減少が著しい
熊本県	性教育が実施されてない。今こそ産婦人科が〇〇〇に必要と思います。
大分県	避妊法選択が変化しているのではないかと。①薬剤の副作用の心配②コンドームが簡易
大分県	相対的にピルの知識がない。いわゆるリピーターが多い。
宮崎県	宮崎県の場合、産婦人科が高校、中学で性教育講演を行っていることが考えられる。
宮崎県	当院に来る患者が減少したためなのか、性教育が進みつつあるのか、減少してきている感じはある。
宮崎県	中期中絶が減少したと思われる
鹿児島県	ピルの普及、コンドーム等の使用徹底などが理由と考えております。

以上の結果から浮き彫りされるキーワードは、ピル(37件)、OC(2件)、pill(4件)、性教育(21件)、避妊(40件)、緊急避妊(11件)、morning after pill(1件)、などであった。

(3) 20歳未満の中絶実施率は変わらないと回答した医師の意見

都道府県	意見
北海道	まだまだ若者の sexual activity は高い
北海道	20才未満の出産数は、その他の年齢層が増加していないのに、増加又は微増の傾向がある。中絶件数は増加傾向はみられないが、妊娠月数の進んだ中期中絶に増加傾向がある。
北海道	士の産婦人科医会で性教育を学校で行っていますが、個々の方々への徹底したヒニン教育はまだまだという感じです。
北海道	高校生が増加している
北海道	現在のところ、20歳未満の中絶実施率はここ数年ほぼ変化がないと思います。しかし、低用量ピルが発売になってから、中絶後に処方するケースが増えており、今後実施率が下がるのが実感できるのでは。
北海道	低年齢(15~19才)は避妊の知識が乏しい。
北海道	避妊に対する無防備な結果、及び知識のなさ。
北海道	性行為は遊びの延長線上にあり、避妊法、STDについての知識が不足。
北海道	決して20代の人々の妊娠中絶率が減っているとは思えない。10代の避妊者に対しては説得などでいろいろ時間をかけて話し合いますが何か時間をかけて話し合うと2度と受診してないようです。自分の説明が不十分なのかもしれません。
北海道	性教育等が行われているが、①具体的な避妊指導がなく、②性モラルの面のみが強調されている傾向がある。両者(①②)をしっかりと指導しなければ望まない妊娠は減少しないと考える。

北海道	無知による妊娠が多いと思う。学校での性教育の徹底の必要性。
北海道	当院では20歳未満の中絶件数は1ヶ月に1~2例で変化なし。但し、妊娠週数がすすんでいる12~16〇のものが多い。悩んでから受診するケースが多い。
北海道	若年者、特に女子の〇年齢の低下、性行動の活発、自由無知、家庭教育、モラルの低下によると思います
北海道	全体でみると数字的にはわずかに減ったかもしれないが、大きく増えている県もあるし、社会の状況が変わっていないどころか悪くなっている。この先また全体的にも数字が上がってゆくのではないかと思う。
北海道	男女ともに、経済的に育児・教育をしていくことに困難な状態にある。女子は無月経で受診、妊娠中絶を希望してくる、ほぼ90%は中絶に終わっている。
青森県	性活動の若年化で中絶も多い
青森県	10代の受診は妊娠中期に入ってからが多い。青森市の性教育(特に中学)が遅れている。
岩手県	性をスキンシップの延長と考え、人工中絶の障害等を全く無視している。
岩手県	性感染症に対する知識、怖さ、妊娠してしまったときのことなどをあまり考えていない。友人とはsexしてあたりまえと考えている。
岩手県	性行動と性感染症、妊娠とか密接に関連しているとの実感が無い。ま、(自分だけは安全と考えているのも加わって)性行為を行っている。
岩手県	〇Cの服用をすすめると同時にコンドームの必要勧告を
岩手県	減少しているとは思えない。「性」に対する無知を減らす面多し
岩手県	当地域での実数は変わっていません。岩手県も変わっていません。
宮城県	特に20歳未満の出産や、低用量ピルの服用者が増加しているというような印象はまだない。従って、若年者が他の方法による避妊に気遣うようになったため、全体としての妊娠数が減ったためと思う。
宮城県	若年者の風潮と学校教育の不備
宮城県	全体的には横ばい傾向で、はっきりとした減少は感じられない。しかし、緊急避妊は確実に増加傾向にある。
宮城県	当地域は狭いので高校生の妊娠は他市の産婦人科医を受診している可能性が高い。10代妊娠で出産する人は当地域では多いように思う。
宮城県	初交年齢が低下の傾向にあるため
宮城県	妊娠に対する知識不足、また、STDを含めSEXに対する安易な考えがbackgroundにあると思われる
秋田県	20未満の性経験者が増加している(高校生に増加ありと思われる)
秋田県	緊急避妊、ピルの普及は認められるが、まだ性交の結果は妊娠、STDの危険のある認識、自分の身体は自分で守る認識が欠けている。
秋田県	情報化社会で若い人達は知識がある様で実際は全く知らない。
山形県	妊娠での受診者数が減少しております。20才未満者のパーセンテージは変わらないように思います。

山形県	実際では、昨年より今年度の方が増加の印象あり（当院）
山形県	いまだに妊娠週数の進んだ中絶希望が多い。今の性教育自体が彼女らの身についてないことと思われる。
山形県	性意識の開放
山形県	相対的に中絶を選択せざるおえない人が多い様な気が致します。
山形県	当院での実績として、H14年1月1日～11月30日42例、H15年1月1日～11月30日45例。避妊法は普及してきていると思われるが、それ以上性交渉が多くなっていると認められる。
福島県	性に関する知識がなく、性教育を積極的に実施していなかったためと考えられます。本年より少しずつは実施されて来ましたが、まだまだ外来のレベルの低さを感じます。
福島県	出産を扱っていない施設なので特にそうかもしれませんが、私の回りでは残念ながら減少している印象はありません。
福島県	全体で見ますと前年比が100を割っている県が多くなり喜ばしいと思います。しかし実際自分の診療で行っている10代の中絶件数は増加しており、福島県は最悪です。我々の力不足でしょうか。学校行政側がもっと動いて欲しいと思います。
福島県	10代の性行動の活発化によるものと思われる。
福島県	福島県平均より高く、性教育の必要性が強調される。
福島県	当院はもともとAusが少なく、10代のAusも稀であるため、実感としてはよくわからない。ただSTDが増えていることは間違いない。
福島県	知識不足、自己責任感が低下していると思われる
福島県	中学～高校生の外来受診の増加（主訴が性病に罹患したかどうかでかなり性行為が蔓延しているように思われる
茨城県	避妊の大事さがよくわかっていないのでしょうか
茨城県	20才未満の妊娠は経済的原因や家庭環境の未整備等のため出産に至るのは困難な様である。
茨城県	中期の中絶が増えています。
茨城県	当人は分娩の希望をもっていても家庭の反対によって中絶にいたるケースが多いようです。
栃木県	ピルのPR 高校（中学も）教育の中で積極的に実践すること。教育にもそれなりの自覚と学生の立場に立って考えていく必要あり。古い道徳・倫理だけでは効果あがらない。
栃木県	ほぼ不変と思います。
栃木県	全国で0.8%減であるが、意味のある減少とは考えにくい。
群馬県	前年と比べ数名増えている。
群馬県	大きな増加はみられませんが、依然横ばいからやや増加傾向であると思います。

群馬県	分娩している
群馬県	横ばいであるのが当院の実施状態だから
埼玉県	中高生モラルの低下が著しい
埼玉県	性情報の氾濫
埼玉県	普校中退者が増えている。この子達の KA が多い
埼玉県	高年が増えているのと同じ位に 20 歳代での分娩数も増加している感があり。
埼玉県	性教育、避妊について正しい知識の啓蒙が必要である。
千葉県	生みたい方は生んで欲しい
千葉県	実際には当院では減少していないため
千葉県	先日も 14 才の中絶があったばかりで、月に数件の 10 代中絶があり、数としては横ばいと思います。増加していないと思います。
千葉県	性の乱行がうかがえる。
千葉県	数値的には少し減少しているようだが、まだまだ高校生における避妊実施率は低いと思う。
千葉県	当院のデータでは 5~10 件/年で 2001 年 5 件、2002 年 10 件でした
千葉県	基本的な性教育がなされていない。(小、中、高校生)
東京都	低用量ピルの服用者が増加しているという印象が少ない。教育が不十分であり、〇〇の服用に対する理解が乏しい。
東京都	未婚の若い娘が sex する事に対しての罪悪感の欠如が社会全体としてあることが問題である。
東京都	性教育の不足
東京都	当院は場所柄 20 才以下の患者は極めて少ないので何とも云えません。
東京都	なんと言っても無知。(性教育の貧困さ) からくることが重大な問題です。
東京都	人口の多いと考えられる埼玉、大阪などでは増加しているので率だけみると減少したように見えるが実数はかわっていないのでは。
東京都	男性、女性共に妊娠に対しての知識がなさすぎる為妊娠してからあわてる事が多いと思います。が本人達が出産を望む場合 10 代の分娩が〇〇が良く行く事が大井ので私は分娩をすすめています。
東京都	当院の料金が少し安いようなので経済的に低所得の若年者が多いのかと思う。
東京都	性交年令の低年齢化による
東京都	今や平成生まれの中絶が出て来たように、性の低年齢化が顕著であり早期の徹底した、少人数制の性教育が必要。急務だと思います。
東京都	患者よりの情報にて真偽の程は定かでないが、低料金と保険を使ったというのから察するに、届出が無い医療機能もあるのではないのでしょうか。近隣の埼玉県が 2 割増なので、実際は増加しているのではないのでしょうか。
東京都	中学・高校でのきちんとした性教育を受けていないためと思われるが、正確な避妊知識がない。その割に性交経験は豊富であるため、望まない妊娠の件

	数は変化していないと思われる。
東京都	学校での避妊教育はだいたい個々に行き渡っているが、まだ遊び感覚で成り行き任せという子供達が多いんじゃないでしょうか？
東京都	やせ…プロポーション的に流行して、無排卵が増えている。避妊していないけれど妊娠しないというタイプが増加。二極化…若くて産むタイプと35歳になっても産まないタイプ。子供のままでいたい。→やせの流行。大人にならないでおばあさんになりたい。(卒業してもまた学校へ行き、そのままオバサンになりたい願望)
東京都	妊娠のチャンスは増えているが、避妊や性病に対する知識が伴わない。男女関係に対する考え方が安易で刹那的である。
東京都	無知と、性の乱れ
東京都	ほとんどのケースが「できちゃった婚」、出産までは感動でうまくいっても親のサポートやパートナー(彼)との関わりがうまくいかないので離婚、育児放棄も多いです。
東京都	10代の妊娠・中絶・性病検査希望等は、当院に関して、増加しています。
東京都	平成15年8月末日で中絶はやめました、高齢の為。来院はしますが他医に送る。親と一緒にくるように言うところなくなります。(最初から親に言わなければダメだという)
東京都	20歳未満の出産はその後の離婚率が高い。母父共問題点が増加するので不利。(フリーターの離婚妊娠が増加)
東京都	あまり変化がないように思える。人口妊娠中絶を実施していないが、希望者だけみても増加しているように思えない。
東京都	避妊が不完全、知識不足
東京都	出産後の離婚が増えている様です。
東京都	今でもコンドーム装着率は低く、OCに対する認識も低い。経済状況から考えても出生率が上昇する事は考えにくく、10代の中絶率は、今後OCの認知が広がらない限り、明らかな減少はないと思われる。
東京都	元々数は少ないが変化ない。
東京都	性に対する情報の氾濫。
東京都	妾相として全般的に人間としての慎みや節操がなくなっているが10代はそれに加えて無知なこと、行き当たりばったりでただ衝動的に性行為を行っている傾向がみられる。短期間に何人とも関係があつて誰の子かわからないと言われることにももう慣れました。10代で出産を可能にしている場合は親のバックアップがしっかりしているか相手の経済状態が良いときに限られるように思います。
東京都	当院では実際16歳、17歳くらいの中絶件数が増加しているから(18~19歳の分娩例は増加したように思えるが・・・)
東京都	真剣に避妊をしている女性が少ない

東京都	純潔教育が不足している。小学校5年生位から性教育は必要である。それ以前は親が教育する必要がある。又、高校生で愛人が出来た場合は今は本人達の容認しておれば親も〇から診とめ援助する必要あり。しかし、不特定多数の交際（性交）は中学校時代から教える必要あり。
東京都	地域性もあると思いますが、この地域では避妊に関しては必ずほとんど変わっていないようです。特に10代の中絶後にはピルを積極的に勧めています。反応がとぼしいのが状態です。
東京都	①結婚前に複数の男性と（同時とは限らない）関係をもつ ②性教育が出来ていないことによる避妊の失敗 ③妊娠しても精神的な経済的な分娩は困難 ④パートナーも同様の状態
東京都	周囲のBack upがない限り、積極的にはすすめない。安易に妊娠・分娩（中絶）に至らないよう指導すすめるべき、地域の取り組みが増加率に現れているのか
東京都	14,15歳の若年層が増加しているように思えます。
東京都	20才未満の妊娠はほとんど予期せぬもので、出産など全く考えられない状況（精神的、経済的含め）である。最近17～19才の妊娠を主訴する人が増加しているように思う。またその100%中絶である。
東京都	開業に4年で患者数が増加する為、全体の傾向は読み取れません。
東京都	家族の協力。その他すべての環境整備などがととのった計画出産が必要と思われれます。
東京都	性教育・不徹底、教育担当者・腰がスワッテイナイ。
東京都	妊娠・出産に対する知識不足、”妊娠したら中絶すればいい”などの声を聞いたことがあり、残念に思います。ピルがあっても、よく使い方がわからないなどの声もあるので、しっかりと知識があれば減少するのではないかと、婦人科医にもその様な（使い方がわからない人に対して）セミナーなどを開く機会が増えたらと思います。
東京都	若者達の性意識、性行動に大きな変化が起こったとは考え難い。
東京都	分娩、中絶の料金を高く設定してあるので、20才未満の患者は少ない。
東京都	20才未満だけでなく、中絶するか出産するかを問わず、本人が普通の社会生活ができないうちは妊娠すべきではない。
東京都	ピルの普及によるものと思われる
東京都	短年間のデータのみで、中絶率が減少したと結論づけることは無理だと思います。もう少し長い年月における〇〇が必要ではないか？
神奈川県	妊娠等に関する教育不足
神奈川県	女性側の不用意、ピルを常用しなければコンドームを常に「けいたい」するべきです。
神奈川県	中学生の性教育
神奈川県	減少したと実感できる状態ではない。

神奈川県	産む子、生まない子がはっきり分けられる。個々人の性格によるものが大きい。
神奈川県	計画的な妊娠でない事が多く、性教育がきちんと行われていないため。
神奈川県	特になし
神奈川県	20才未満の妊娠は、街角的な部分が多いため、緊急避妊でない限り、減少することはないと考える。
神奈川県	妊娠後、結婚する方が多い。
新潟県	避妊に関する知識がない(少ない)ことは、従来と同様に思われ残念である。
新潟県	減少という実感は全くありません
長野県	母親とのコミュニケーションがうまくいっている場合にはそれ程の問題もなく、出産にいたっているケースが多い。
長野県	避妊についての知識、理解の不足
長野県	・数字の推移からみて。 ・現在中絶術を行っていないので自分のところの数字は持っていない。
長野県	長野県の統計には間違いがあり、急増しているように見えますが、一応横ばいです。しかし、800 という数そのものが少ないとは言えないため、今後より努力が必要と考えます。
長野県	性交年齢の低年齢化、避妊m、性感染症に対する知識の無さを知ると、減少しているとは考えにくい。
長野県	性行為そのものの日常化が若時
長野県	・母性の確立を出産までになるべくできるように積極指導。 ・最近出産数字が増えてきたが、子育てを両親に頼れるかどうか家庭環境の把握
長野県	御年配の医師が廃業し、(報告していなかった?)我々若い開業医が全例報告し始めたので多くなったと思われます。上田市内ここ10年で4医院廃院。当院20歳未満1人親が同伴しないと断りなのでやや少ない。
長野県	横ばい状態であるが、低年齢の成功は増えている
長野県	人工妊娠中絶をする女性の低年齢化がある。18才、19才で出産する女性が増えたのか、性交年齢が早くなるなかで人工妊娠中絶の数全体はおさえられていないように思う。
山梨県	free sex の傾向は増加している
山梨県	ほとんど数的に変化ないため。
山梨県	まだまだ緊急避妊ピルは一般化していない。
静岡県	当院での20歳未満の中絶件数は増加している
静岡県	当院では中絶を殆んどやりませんので。中絶希望で来院しませんが、STDの増加もあり、若者の妊娠は増えていそうです。
静岡県	はっきりは分かりませんが、母親と相談に来る件数は毎年変わると思います。ピル服用の相談も10代はあまりいません。産婦人科へは来ずらいのだと思います。相談に来られる人は、妊娠についても注意している。

静岡県	低年齢層の出産が増えている。中絶も多い。性教育（学校での）の普及が望ましい。
静岡県	OCを勧めても毎月3000円かかることがネックになっています。中絶費用は相手が出してくれることはほとんどですが、OCは自分持ちになるようです。 ←趣旨違い、失礼！
静岡県	現在、その気になれば避妊は十分さまざまな方法で出来ると思いますが、妊娠して来る方が、避妊をする意識がない女性が多いと思う。
静岡県	考えもせず(少しは妊娠のことを心配している?)に性交する、妊娠するとは思わなかった(!)など、安易に性交してしまう。正しい性知識、常識を持ち合わせていない。若者の常識(...??)は何??
静岡県	当院での20歳未満の中絶件数は変わらないように思う。
静岡県	中には充分知識をもち前向きな人も多くは無知のまま妊娠しこまっている。もっと小中学生のころから教育すべきと考えます。
愛知県	①女性からみると彼の特定が早く、sexが当然の事と思っている。②避妊に敏感な女性もいるが、何も考えていない人が多い。③丹樹に子どもが欲しいとの考えが多く、妊娠してからどうしようとする人多し。
愛知県	当院では増加している
愛知県	20 性知識の不足、避妊が正しく実行されていない。
愛知県	無知、無責任で衝動のままの行動が多い。
愛知県	高校生のSEXは当たり前との感じを来院する若い女性から感じる。その中で親の見解で生むか生まないかを決めるのではないだろうか。
愛知県	ますます若年化している。
愛知県	20歳未満の中絶件数は減っていないし、分娩も中期中絶もあり、ピル服用希望の10代はほとんどいません。以上より印象としては不変と思います。
愛知県	最近20才未満の出産がやや多めにみられるが、これは一時的な現象に過ぎないとおもう。
愛知県	雑誌、テレビなどの間違った報道。学校での性教育のギャップのありすぎ。
愛知県	家族計画を指導お願いします。
愛知県	中絶が減少したのは既婚者で未婚者且つ20歳未満の人の減少はありません。多人数とのセックスが行われるので完全な避妊が実行されないのではと考えられます。多人数とは、特定の相手がいても時々他の異性とも気軽にセックスしているのではと考えられます。
愛知県	学校(中高)での性教育の徹底
愛知県	性交の低年齢化が進み、10代の妊娠及び出産も増加傾向にあるのではないかと。それに伴い中絶も増加しているように感じる。
愛知県	避妊に対する意識はあまり改善されていないと思う
愛知県	STD及び妊娠に対して無知である。

岐阜県	当地域では変わらないというのは率直な印象です。その理由は以下のアンケートの回答がすべてです。
岐阜県	当院では原則人工妊娠中絶は行っていませんが、中絶希望で来院する10代の人は結構多いです。特に学生が多い様です。一方で10代の出産も増えていません。
岐阜県	我々の地方の産婦人科の集いの時によく話題となるが20歳未満のそれを増加と一途をたどっている。これは性行動の低年齢化と性についての規範の希薄化の両方によってもたらされていると考えられる。
岐阜県	まだまだ多いと思う
三重県	Data 上三重県は減少してはおりませんが、高校中退し出産する子も増えております。(やはり高校生の遊びのまずさを、我々の責任と考え、日々指導しております。)
三重県	人生設計等、全く考えず妊娠し、親等の援助を受け生活しようとする。全く無計画にもはなはだしい。その結果、児童虐待に進むケースを心配する。
三重県	家族意識、親子意識の希薄化→自分自身を大切にしない→安易な性交渉、安易な結婚観
三重県	Sex、病気についてしっかり教育する必要あり。蔑されていない犬みたいな若者が多すぎる。
三重県	三重では増加している
三重県	データをとっていないのでわかりません
富山県	平成14年3月で、母体保護法指定医師を返上致しました。
富山県	手術件数自体は変わらないから
石川県	当院では行っていませんので伝聞に過ぎませんが20歳以下の患者の性意識が変わってきているということは毎日の診療でも感じています。(避妊の知識のない人が時々います。複数のパートナーはあたりまえの様です。)
石川県	行政・我々と共に性教育啓蒙の甘さ、若者の安易な性行動(多種・多様化?)が広がりつつある感が否めないと考えます。
福井県	当院での最近1, 2年での実施数がやや多いため。
福井県	性教育が不十分が痛切に感じる
滋賀県	前年度の20才未満の件数と、今年の件数にほとんど変化がないから。
滋賀県	経済的理由、サポート体制の不備
京都府	10代において、OC服用者及び中絶実施率が極端に増加したとは思わない。但し、緊急避妊薬服用者は、29才までで明らかに増加傾向にある。
京都府	私共に来られる出産される方は、理解力、〇〇ともに高く、〇〇育児も充分、又、子育ても、とても生理学的に正しく行っています。
京都府	20歳未満の中絶実施の施設は京都南にたくさんあります。年にとって施設の推数が変わるかもしれない。20歳未満の成功〇行為は年々早く、増加傾向、しかも乱れ傾向、STDの増加も問題になる。(今年コンジロマの驚異的の増

	加な増加注目すべき)
奈良県	妊娠を考えない軽はずみな性行為が多いと思う。避妊の知識、緊急避妊についての教育が必要と思います。20歳未満でピルを所望する人が極わずかだと思います。
奈良県	あまりにも知識がなくあまりにも無防備にセックスをして避妊する若年者が多い
大阪府	のぞまない妊娠の数が増えた傾向がある
大阪府	妊娠数は増えていると思われる。出産をする数も増えているが、まだ相対的に中絶数も増えているようだ。分娩/中絶の比は若年でも分娩に傾いてきているように思う。
大阪府	依然10代の妊娠が多く、ピルはそれほど普及していない
大阪府	20歳未満の性交頻度機会が増えている。
大阪府	当クリニックは18歳未満の中絶の取り扱いはしていないので詳しいことは不明ですが、明らかに初交年齢の低下を感じられることより20歳未満の中絶も減少しているとは考えにくい。
大阪府	一般的にSEX、妊娠に対する考え方が安易である
大阪府	率の変化はないが低年齢化。〇〇の中絶が20歳未満に多い感有り
大阪府	約80%は中絶、約20%は出産となる。出産後はいわゆるヤングママとして立派に母親役をつとめている。これには父母など近親者の理解と協力を要すると思う。
大阪府	性教育等の
大阪府	来院患者の動向から
大阪府	データ上も増加しているが、実感としては10.8→11.0%以上に増加しているように思う
大阪府	ご送付いただいた資料では、全国の中絶実施率の減少化に対し、近畿では増加しており、残念に思います。性感染症を含め、十代の性の問題については小生も関心が深く、高校での講演会等啓蒙に務めておりますが、十代への情報提供としての情報源の拡大を考えていく必要を感じております。
大阪府	中絶実数が少ない、2件/月位なので意見がのべられない。
大阪府	性行為に関して抵抗感が低くなっているにもかかわらず否認に関心関心が低い
大阪府	避妊に対しての知識が乏しく、多くは避妊していないと自慢しているので、驚きます。学校等で避妊、中絶リスクをはっきり指導すべきと思っています。
大阪府	20才未満では避妊についての知識の差があり過ぎる。又、知識があっても、実行できる性格か否かが問題です。当地域では、20才未満の出産も増加したが、中絶も増加した様な気がします。

大阪府	特になし
大阪府	届自体が正確でない為判断の根拠がない。(届を行わない施設はかなり多いようです)
大阪府	今年12歳のSTDがありました。
大阪府	避妊方法、性病についての知識がなく、方法相談相手もないようです。
大阪府	性の大切さが自身よく考えていない、群集心理で皆してるから自分も性交のチャンスをもたないと恥しいという考えがあり、何の計画も愛情もなく制即的な行動が多い。母親の教育も大いに影響するのではないだろうか？
大阪府	避妊についての知識が未熟である
大阪府	一見減少？でも実態は○！時の流れ、更に増加するのでは。
大阪府	小中学生の性教育をさせてもらっているが、本人達が相談するところがない。親はだめ先生はだめ、友人とおして考えていいということが多いと思います。そういう意味で相談の窓口が必要と思います。本人達がやはり自分が大切とか子供はかわいいとか本当に素直なところをたくさん持っている。
大阪府	初体験が低年齢層に及んでいる現在20歳未満の妊娠、分娩が増加しているのは当然である。中学生、高校生の「人間の性」の教育の充実が必要である。
兵庫県	特に変化を実感していない。
兵庫県	避妊についての知識が驚くほど欠如している印象を持ちます。
兵庫県	20才未満の人は妊娠に対していまだに無防備な人が多いように思う。
兵庫県	月経、排卵(月経周期)の無知などによる希望しない妊娠が多い、性教育(避妊について)が必要。
兵庫県	低用量ピルの普及率は余り変わってないように思う。
兵庫県	当院では妊娠中絶は行っていませんが、田院への紹介はしています。中絶希望の方の初診は少ないのですが、最近特に増減はないように思います。世代間の差も感じていないのが、外来をしていての感想です。
兵庫県	正確な避妊が実行されているとは思えない。
兵庫県	性行為の若年化
兵庫県	18才以下では出産はしない方が良くと思う。そのためにはピルも重要だが、セックスの氾濫になっても困るし。
兵庫県	保健指導が不十分である。
兵庫県	未胎、妊娠、出産等現実に千分の2~3は必ずある。性の解放的風潮が背景にあるので減少することはない。
兵庫県	性体験年齢が低下し、その反対に教育が必要な人に行われず、実際必要な者は聞こうとしていない。避妊の必要性について性感染症を含め教育が必要と考える。若年者は離婚も少なくない。
兵庫県	妊娠からの入籍が多い
兵庫県	知識の無さを感じます。20歳未満で妊娠がわかったときどういう選択をするのかbestと言えなくなっている。本人はともかくとして子供には親を選択す

	ることはできないのだから・・・
兵庫県	教育不足の何ものでもない。保護者や子供達に対する国全体での取り組みがなされていない
兵庫県	現在性の解放化の進む中、10才代の妊娠が増加しているように思われます。特に15～17才位の妊娠相談が増えており、人工妊娠中絶にやむなく到る数が近年目立っております。
和歌山県	(地域により)ピルの認識が低いと思われる。
和歌山県	知識不足がはなはだしく、性行為の目的も好奇心的な理由が多く、妊娠、STDに対する抑止力は見られない。
和歌山県	増加傾向にはないと思いますが、あまり変化ない様に感じます。(ピルの処方方は20才代以上で10代の方はほとんどない様です)
和歌山県	犯罪性のある者も散見される様になった
鳥取県	初交年齢が一層若年化している。
鳥取県	高校中退者、高校生の妊娠人工中絶が増加している
島根県	都会地と違って田舎では今頃になって若年者の性経験性行為がふえているとも考えられる
島根県	低年齢化しているのが目立つ
島根県	低年齢化していると思う(中絶に関して)
岡山県	外来の印象として20歳未満の患者数が少し増加した感じを持っている。
岡山県	外来での中絶実施件数はあまり変わっていないように思う。
岡山県	クラミジアや淋菌の感染が多いのでコンドームなしの性交がいつも簡単に行われていると思われまます。避妊に関しても、知識が不足していると思われまます。
岡山県	小院、現在、分娩取り扱いを休止中ですので確証はありませんが印象としては中絶実施率は減少したとは思えません。
岡山県	性交開始年令中学生(それも1年生)というのもめずらしくない!当地は周辺が農村・山間地域なので嫁不足の事情からも「できちゃった」の場合、異性側が(特に親)結婚を望む例もあります。子どもを父親に置いての離婚も多い。
岡山県	性的な知識がかたよっていて、いちばん基本的な避妊のしくみについての知識が驚くほど乏しいのでは…。発交年齢の低下がいちぢるしいように思います。
岡山県	10代の女性の妊娠、出産数もほぼ毎年同じくらい。
広島県	毎日の診療で避妊に失敗し中絶する件数が多く、出産する数は少ないが、産めばよいものではないと思う。
広島県	確実に中高生の妊娠数(SS)が増加している
広島県	高校生の妊娠が多い
広島県	田舎に行く程、未成年の中絶率が高い?生活感覚が大都会では低用量ピルの

	普及率が高いからか？私自身は中絶手術もしていないし、未成年の患者の多くを診ていないのでよくわからない。
広島県	20才未満の女性が妊娠で受診した場合、半数以上の女性が心の奥では出産を希望しているようだ。しかしながらそのうちのこれも半数以上が相談の末次回の受診時に中絶を希望してやってくる。この傾向はこの数年変わらないように思われる。そういう意味で20歳未満は精神的に熟しておらず、他人に依存するやや現実離れした印象をうけます。
広島県	最近の親の傾向は「物分りの良い」風で、10代の妊娠にもパニックになるほどでなく、出産にも許容するケースが多くなっている印象があります。その結果、出産後数年後にはシングルマザーとなることが多々見られます。その後の養育放棄のため、「精神的」孤児が増えているように思います。
広島県	20才未満の性病・罹患が増えているようです。同時に中絶実施率も増えているようです。
山口県	10代の出産者は親がかりは当然で育児、収入についても十分考えていないように思う。
山口県	・性知識不十分。・年長の社会人と高校女生徒の組み合わせが目立つ。
山口県	①避妊方法の知識の未熟。 ②緊急避妊ピルのことを知らない。③若年者のSTD増加がみられることから、若年層の性行為は増えていると予測できる。
山口県	むしろ増えていると思うから
山口県	1)東京、大阪が全国の動向を先導していると思われる。 2)東北・北海道、九州・四国においては、大都市圏と同じ性向度が波及したにもかかわらず友人から、インターネットからの対策情報が普及していないため、こうした高い妊娠率を示すのではないかと。 3)沖縄と奈良と山梨が良いのは何故か興味があるところですが、実数把握は充分なのか、性情報の氾濫を防止したり、家庭や地域の目があって、性交率が低く抑えられているのか、などが考えられます。 4)当方、山口県は全国平均に近い動向で、東京・大阪を追尾しているところでしょうか。
山口県	当院は中絶件数が多くないので…。20才未満の人の（性、ヒニンに）に対する知識がないことに驚く。また土地柄、18才でも妊娠したら親が面倒みて生むケースが多い。
徳島県	未成年をとりまく社会環境の悪化。
徳島県	当院では、20才未満の中絶率がふえているから。
香川県	当院では、出産（分娩）を取り扱っていないので、意見をさしひかえさせて頂きます。
香川県	出版物（雑誌、コミック、単行本など）が〇〇〇
愛媛県	田舎のせいだと思うが、パーセンテージがすごく低く、数も少ない。ただし当院は出産は取り扱っていない。
愛媛県	近くに4年制大学が2つあり、大学生の妊娠、来院が多い気がする。

愛媛県	当院は旧入院での手術をしていることからもともと手術患者数が少ないので
愛媛県	特に気づいたことはありません。
愛媛県	妊娠、避妊に対しての正しい医学的知識の不足。
高知県	STD、中絶の実態を知らず、〇〇〇〇等、性を〇〇〇〇、友人による安易なSEXにはしるなと思われ、出産、結婚をしてくれ〇〇結構なのですが、十分な指導をしたいと子供を〇〇〇〇危険性もある。とにかく@@@医による学校教育が必要と感じている。〇〇〇。〇〇〇商売のな、〇〇〇
高知県	県行政(中心地に患者相談センターを設置)と、県産婦人科医会(母体保護法指定医研修会、保健師、助産婦当も出席、閉@性教育講演(高校)等)で対策をたてて啓蒙に努めていますが、明白な減少として表れません。
高知県	中絶を軽く考えているから。
福岡県	福岡県全体では2%と減少していますが、当クリニックでの人工妊娠中絶全体に対する20歳未満の割合は減少しておらず、20才未満の中絶率が減少したときの印象はありません。
福岡県	性交の低年齢化
福岡県	20歳未満で妊娠をしている女性は、学生、無職の場合が多い。学生の場合、初診で中絶の意思表示があるが、無職の人の場合、産むかどうかは病院での診断を確認し、帰って男性と相談し、結局は手術となる場合が多い。もちろん男性が産んで良いという場合は、分娩となる。中絶後は翌日受診させ、ピルの話をしているが、20歳未満の人ではピルを内服する人は極端に少ない。費用、副作用(太る)、家族に知られると困る、などが理由か。
福岡県	contraceptionに対する知識がほとんどない。女性側の主体性がない。
福岡県	避妊の知識はあっても実践していない。妊娠に対する考え方が安易である。
福岡県	以前はコンドーム使用率が高かったが、最近の使用率が減少しているのではないか、中断法を行っている患者が多い。
福岡県	性交経率の減少：ありえない。 避妊実行率の上昇、避妊法の変化；おそらくなかろう。 広報啓発活動：誰も知らない(知っているような子は性交・避妊などと無縁に近い子)。 思春期保健指導者の効果：残念ながらほとんど無さそう。
福岡県	STDの増加を考えると、避妊していない女性が多く、STDやD&Cへの恐怖をほとんどもっていない。複数とのSEXにたいしても平気な状況。
福岡県	性体験に対して抵抗感が多く、保護者も同様である。
福岡県	当院では未成年の中絶は相変わらず多くあります。妊娠したらおろせばいいと簡単に思っているようです。生命の尊士が良くわかっていないようです。(先日、薬で散らしてくださいと言う者までいました。)
福岡県	今年は平成生まれの中絶がありました
福岡県	全体数がものすごく減少している割には20歳未満減少はそうない。(やはり、毎年全体数と同じく減少はしている)

福岡県	性の開放、親の無関心または子の信じすぎ
福岡県	5年～10年のサイクルでみた場合、出産はさほど変化ないと思うが中絶の数が増していると思う。当院は18以下では（特に高校生）親の同意をとってやることを条件としているため、その認識は高いと思う。
福岡県	20才未満では突然のセックスの為に避妊まで気が廻らずに失敗して妊娠する人が在る。失敗して中絶の経験のある人はピルを飲むようになるが、初めから避妊の為にピルを産婦人科へもらいに行きにくいのではと思われる。
福岡県	20才未満の中絶は減少しているとは思えない。出産は少し増えている印象はあります。又中絶を希望していても時期をはずして、その後の経過がわからない例もある。
福岡県	年々若年者の妊娠及び妊娠中絶手術が増えている。
福岡県	中高校生の望まない妊娠は後を絶たないし、避妊に対する意識もきわめて低い。
福岡県	人工妊娠中絶術を受ける年齢が低年齢化している。14才ではめずらしくない。離婚率が高い。母子医療者の中絶者の増加。
佐賀県	日本は3ヶ月までは中絶できる（法律で認められている）と思っている人がかなりいる。中絶は簡単に、ほぼ安全な手術と思っている若い人ほど避妊の必要性・方法などほとんど知らないか、関心がない。
佐賀県	低年齢化は続いており、性知識のなさもひどいものである。
佐賀県	16～17歳でも出産する人も多いのですが、学生、生徒の性教育がなされていないのでは？
長崎県	当院の総患者数が増加していないので、あまり減少したという印象はない。ただし、20歳未満の方でも妊娠継続・分娩を希望される方が増えている印象にあります。
長崎県	性交経験が広がってる事と妊娠への知識低さ
長崎県	妊娠、出産の絶対数は減少している。しかし、率は変化ないように思える
長崎県	経済的な理由が一番多く、次に学生であること、親の反対等。特に若い程その傾向は強いように思う。
長崎県	17歳未満の性交が増えていると思う。
長崎県	社会進出への低年齢化
熊本県	安易な性交渉の増加
熊本県	20才未満の妊娠は増加していると思う。また、その中で、中絶も増加しているが、統計に出ない（届出していない）症例があると思う。
熊本県	当院に来院する20歳未満の妊娠例はほとんど避妊をしておらず、知識の不確かさを痛感する。性教育の普及が急務だと思われる。また、出会い系サイトなどの関係する事例もあり、問題は広がっている。出産例が増加した印象はない。

熊本県	うちでは2001年の20歳未満の中絶数は49件(約274件中)、2002年の20歳未満の中絶数は54件(約279件中)と増えています。しかし、妊娠12時間以内の中絶数が多くなっている。早期中絶が増えている。
熊本県	避妊に対する認識が乏しいと思います。子供が欲しいという純粋な
大分県	現在の20歳未満の女性及び男性においても妊娠に対する責任感があまり感じなく我侭である。まして、その子供の親にしてもしかり。教育
大分県	毎年妊娠の機会を持つ20歳未満の女性が出現する訳であるから中絶が減るということはないのではないかと。よほど若年よ性教育を始めないと中絶が現象することはないと思いますが。
大分県	社会的な立場から、かなり周囲の理解を得ることが難しい反面、若者の行動より自分達主体で物事を考えがちである。その結果、出産育児がいかに社会的な協力を得られなければ苦しいかを始めて知ることになり、育児放棄する可能性を持つだろう。
大分県	・H13年、H14年の当院の統計より、23%から28%に増加(当院の全体例より)。 ・緊急避妊は情報としてあり、希望者の来院もある。出産を選択するケースは、増加というより、ある、という程度。
大分県	理由はわかりませんが、最近では高校生の中でも進学校の生徒の中絶が多い印象です。
大分県	①初交年齢が低下しているにもかかわらず、性教育避妊虚育が遅れているため ②母親の世代が避妊に対してあまりにも無頓着で娘に対しても、息子に対しても教えてないが”ピルは身体にわるい”等という疑った知識を伝えている。 ③ピルの費用が高すぎる
宮崎県	・避妊する意志に欠けている。自己管理の不足。 ・性教育を産婦人科としてやっているつもりだが、底辺を広げ幅広く根気よく継続する必要あり。
宮崎県	17~20歳の分娩は増加した感じがする。本人の年齢、生年月日に偽りが多い(中絶の場合)。平気で虚偽の住所、氏名を書く者も多いです。
宮崎県	無知又は不注意/けいもう必要
宮崎県	避妊に対する知識不足
宮崎県	避妊が徹底していない。
鹿児島県	自分の所では逆に増加している
鹿児島県	自由検診という人工妊娠中絶術の性格より統計は参考になるが信頼性について疑問がある。日々診療している実感としては変わらないまたは増加している印象である。
鹿児島県	以前に比べ18~20才位の短大生、大学1,2年生、専門学生、フリーターといった人達の中に妊娠したと云って来院するものが増えている。(当院ですべて中絶しているわけではないので詳しくわからないが中絶実施率は増加しているのではないかと)

鹿児島県	ピルについての恐怖感など、正確な知識をもたない人がほとんど。中絶後は必ずピルを含めて避妊指導するが10代での服用希望者はほとんどいない。経済的理由などもあると思うが理由がよくわかりません。
沖縄県	米軍基地があり、むしろ増加していると思う。性教育をばかにする風潮のある高校受験校の教師がまだまだたくさんいる。
沖縄県	早熟
沖縄県	緊急避妊ピルの事を知らず、避妊がその場しのぎかつ男性まかせで、本人(女性)主体の意識が薄い。D&Cの都度注意を促すが、中絶(LZ)をくり返す傾向認めます。

#### (4) 低用量ピルの処方等について

「低用量ピルについて、2003年11月現在の処方状況について教えてください」との質問を向けたところ、ピルの処方人数は1施設当たり月平均42.8人。約10%の施設は月平均100人以上の女性に処方していた。月当たり処方人数を800人と回答された医師がおり、電話で確認したが、地域で

の性教育の実践と合わせて熱心にピルを処方していた。また、前年に比べて20歳未満の女性に対する処方人数が増加傾向にあると答えた施設は15.2%であり、減少傾向にあると答えた医師は5.1%。さらに、低用量ピルに必要な費用は薬剤費、処方料、ルーチンに行う検査費用などを含めて月平均3,638円という結果であった。

表. 1ヶ月に、何人くらいの患者にピルを処方しているか

	件数	平均(人)	標準偏差	最大値	最小値
全国	682	42.8	68.1	800.0	0.0
北海道	20	77.8	72.9	300.0	1.0
青森県	9	153.8	251.7	800.0	9.5
岩手県	8	13.4	9.0	30.0	3.0
宮城県	12	46.2	86.0	316.0	3.0
秋田県	8	95.6	95.9	300.0	10.0
山形県	6	43.1	25.5	63.0	3.0
福島県	13	52.4	44.9	140.0	5.0
茨城県	9	17.0	10.4	30.0	3.0
栃木県	8	33.8	19.8	75.0	15.0
群馬県	15	72.5	149.3	600.0	0.0
埼玉県	16	19.4	17.7	70.0	1.5
千葉県	16	16.2	14.9	60.0	2.0
東京都	96	57.1	98.3	750.0	2.0
神奈川県	29	27.8	25.1	130.0	1.0
新潟県	7	30.3	44.1	130.0	10.0
富山県	4	11.3	8.4	20.0	0.3

石川県	10	23.1	24.0	88.0	8.0
福井県	7	11.8	8.3	30.0	5.0
山梨県	2	55.0	63.6	100.0	10.0
長野県	12	19.8	13.2	50.0	2.5
岐阜県	11	42.4	56.5	200.0	1.0
静岡県	25	26.3	16.4	55.0	2.0
愛知県	33	38.7	41.9	200.0	4.0
三重県	16	37.4	30.4	100.0	1.5
滋賀県	6	39.5	56.9	150.0	2.0
京都府	14	45.3	76.1	300.0	2.0
大阪府	59	42.2	61.3	300.0	3.0
兵庫県	30	30.0	29.6	130.0	4.0
奈良県	6	40.0	21.7	80.0	20.0
和歌山県	8	22.5	12.2	45.0	10.0
鳥取県	4	12.0	9.2	25.0	5.0
島根県	5	28.0	14.8	50.0	10.0
岡山県	14	42.2	28.9	100.0	5.0
広島県	19	54.0	65.3	300.0	1.0
山口県	6	36.3	19.7	70.0	20.0
徳島県	5	38.4	39.1	100.0	5.0
香川県	5	33.1	51.6	125.0	3.0
愛媛県	7	28.3	34.1	100.0	5.0
高知県	5	48.0	33.5	100.0	10.0
福岡県	37	55.6	60.3	300.0	2.0
佐賀県	5	22.8	16.4	50.0	10.0
長崎県	11	17.2	8.9	30.0	2.0
熊本県	11	32.5	34.6	130.0	10.0
大分県	10	79.5	78.1	200.0	5.0
宮崎県	10	18.9	12.8	40.0	2.0
鹿児島県	7	39.4	41.7	120.0	10.0
沖縄県	6	21.0	20.1	55.0	1.0

表. ピル処方に係る薬剤費、処方料、ルーチン的に発生する検査費用（患者の要望で行う検査は含みません）の1ヶ月での平均金額（円）

	件数	平均(円)	標準偏差	最大値	最小値
全体	687	3638.5	2456.8	32500.0	0.0
北海道	21	3297.6	1655.5	10000.0	2000.0
青森県	9	2733.3	565.7	4000.0	2000.0

岩手県	8	4337.5	2512.2	10000.0	3000.0
宮城県	15	5988.3	6889.6	30000.0	3000.0
秋田県	8	2581.3	497.1	3150.0	2000.0
山形県	6	2975.0	426.3	3500.0	2200.0
福島県	13	3473.1	548.7	5000.0	3000.0
茨城県	10	4310.0	3115.4	13000.0	2500.0
栃木県	9	3216.7	1142.8	6000.0	2000.0
群馬県	14	2992.1	337.1	3500.0	2200.0
埼玉県	16	3503.1	1032.2	6000.0	2500.0
千葉県	18	3855.6	3086.5	15000.0	1750.0
東京都	101	3547.5	1559.4	10000.0	1890.0
神奈川県	28	3465.7	1559.1	10000.0	1390.0
新潟県	8	2875.0	492.1	3500.0	2100.0
富山県	4	3125.0	629.2	4000.0	2500.0
石川県	10	3180.0	404.3	4000.0	2500.0
福井県	7	3142.9	378.0	4000.0	3000.0
山梨県	3	2666.7	288.7	3000.0	2500.0
長野県	11	6467.3	7920.8	30000.0	2500.0
岐阜県	9	3222.2	744.6	5000.0	2500.0
静岡県	26	4569.2	2605.9	13000.0	3000.0
愛知県	32	3209.4	852.0	6000.0	2000.0
三重県	15	3463.3	1367.0	8000.0	2000.0
滋賀県	5	2960.0	89.4	3000.0	2800.0
京都府	15	5026.7	7611.7	32500.0	2500.0
大阪府	61	3559.0	1133.7	10000.0	2500.0
兵庫県	32	3440.6	983.3	7500.0	2250.0
奈良県	6	3041.7	245.8	3500.0	2750.0
和歌山県	8	4662.5	1763.9	8000.0	2500.0
鳥取県	5	3100.0	547.7	4000.0	2500.0
島根県	5	3100.0	741.6	4000.0	2000.0
岡山県	13	3176.9	674.4	5000.0	2500.0
広島県	18	3034.7	687.7	5000.0	2100.0
山口県	6	3300.0	1362.4	5000.0	900.0
徳島県	3	3000.0	500.0	3500.0	2500.0
香川県	5	2960.0	939.7	4000.0	1500.0
愛媛県	7	3807.1	1924.1	8000.0	2500.0
高知県	5	3000.0	935.4	4500.0	2000.0
福岡県	34	3576.5	1484.1	8000.0	0.0